

設楽発掘通信

No.9
平成27年
5月1日号

平成二十七年設楽ダム関連

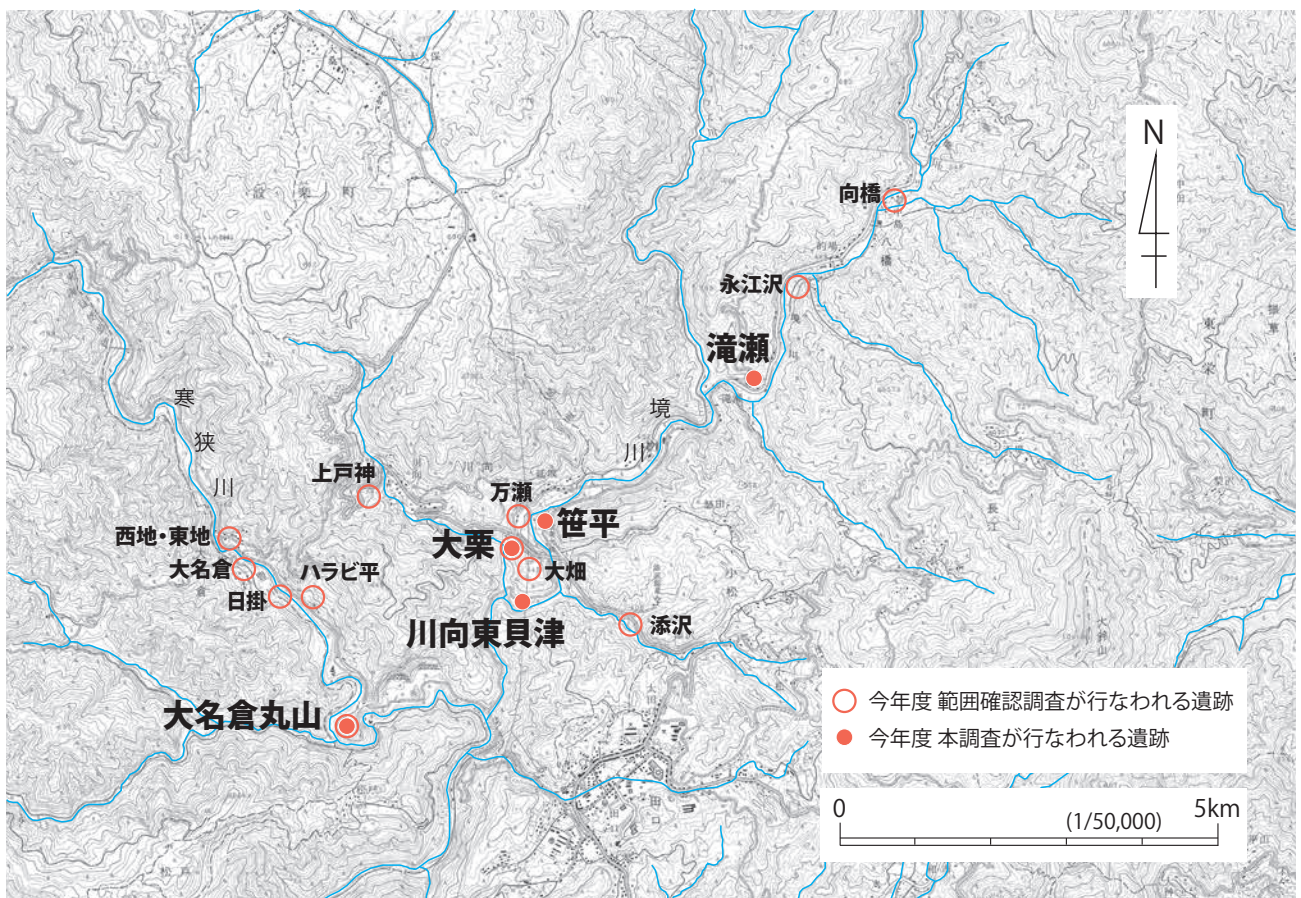
発掘調査が始まります

設楽ダム関連事業に関わる工事予定地や水没する地区には、数多くの遺跡が分布しています。遺跡の中で工事によって壊されたり水没したりする部分については、事前に発掘調査を行って、遺物を取り上げ、記録を残さなければなりません。

この発掘調査は、愛知県埋蔵文化財センターが中心となつて行います。発掘調査は大きく、滅失する遺跡全体を対象とする本調査と、本調査を行う前に遺構や遺物が分布して本調査を行う必要がある区域を調べる範囲確認調査の二種類に分けられます。平成二十七年では、本調査を五遺跡、範囲確認調査を十二遺跡で実施する予定です。発掘調査を担当するのは酒井俊彦、鈴木正貴、樋上昇、蔭山誠一、川添和暁、早野浩二、鈴木恵介の七名の調査員で、株式会社二友組の支援を受けて進めて参ります。調査を円滑に行うには、地元の皆様にご理解を頂くことが最も大事と考えています。よろしくお願い申し上げます。

また、本年度もこの「設楽発掘通信」や各遺跡の地元説明会などを通じて、調査成果などをお知らせする予定です。ご期待下さい。

(愛知県埋蔵文化財センター 鈴木正貴)



平成27年度に発掘調査する遺跡の位置図（国土地理院刊行2万5千分の1地形図「田口」を50%に縮小）

発掘調査のその後

平成二十六年西地・東地遺跡の発掘調査は昨年度一月中頃に終了し、出土遺物や記録などを埋蔵文化財センターに持ち帰りました。時期は未定ではありますが、今後、報告書作成に向けて、整理作業（室内調査）が行われることとなります。整理作業としては、現場で測った図面・写真など記録類の分析・編集と、接合や復元・図面作成など、遺物についての詳細な分析作業が行われます。

今年三月八日の成果報告会に向けて、ごく一部だけ整理作業を行いました。ここでは、その作業で明らかになった成果について、ご報告します。

『設案発掘通信第八号』で報告しました、竪穴建物跡の床下から見つかった埋甕について、接合および復元作業を行い、ほぼもとの形に戻すことに成功しました（図1左）。高さ四一・五センチ、口径三〇・六センチの深鉢で、口縁は平らで、底部も径一二・五センチほどの大きさを平らになっています。表面にはJの字のような文様が、太い線で三段描かれています。復元の結果、六単位で一周しているが分かりました（図2）。この土器にあるJ字文といわれる文様は、縄文時代後期初頭（およそ四千四百年前）の時期に見られる土器の文様です。この土器の底部には径五・五センチほどの孔があけられています。底部を外から観察したところ、編みものあるいは組みもの（編組製品）の圧痕が確認できました。『設案発掘通信第七号』で紹介したように、土器を製作する際に使用した敷物のあとが付いたものと考えられます。



図1 西地・東地遺跡 埋甕の埋設状況（右・中央）と復元した状況（左） *破片のない部分は充填剤で埋めてあります

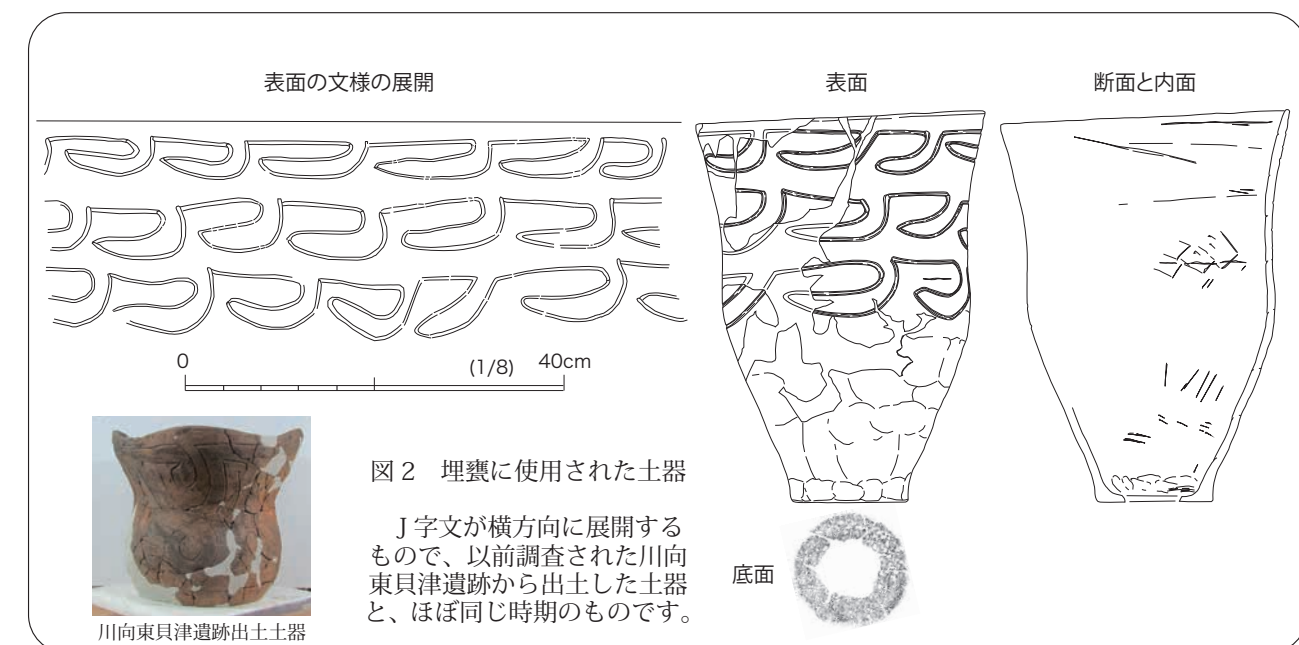


図2 埋甕に使用された土器

J字文が横方向に展開するもので、以前調査された川向東貝津遺跡から出土した土器と、ほぼ同じ時期のものです。



出ている部分の破片を上下逆さまにして入れたようです

図3 西地・東地遺跡

長方形石組炉跡（右）と土器埋設模式図（左）

作業を行いました（図3右上）。発掘調査の時点でも、胴部のみが輪切り状になった土器の中に、口縁部が欠失した土器を斜め方向に納められていたことは分かっていた。接合および復元作業の結果、外側の土器は胴部上半を使用していること、さらに内側の土器は斜め方向に納めた時に飛び出る部分は、壊して内側と外側の土器の間に納められたことが分かりました（図3左）。また、脇の土器敷炉跡に使用された土器細片とは別個体のものようです。外側の土器の表面には太い線による文様が、内側の土器の表面には縄文が施されており、内側の土器の底面にも編組製品の圧痕が残されています。時期は縄文時代中期後半から後期初頭頃（四千五百年前頃）と考えられます。

このように入れ子に土器を埋設した類例として、津具地区の落合遺跡の事例があります（図4）。これは、三月八日の成果報告会において、参加された方から詳しく教えて頂いたもので、その後に資料調査を行いました。当時の出土状況の写真を詳細に見ると、埋設された土器の周囲には長径二〇センチを越える礫が高さを同じくして見つかっています。工事で礫が若干動いていると考えられ、礫は石囲い炉か配石遺構の一部であった可能性もあります。しかしそれよりは、礫の高さが竪穴建物跡の床の高さであって、入れ子の土器は炉跡脇に埋設されたものの可能性が高いようです。もしそうであれば、落合遺跡の事例は、西地・東地遺跡の事例と用途・目的も類似する好例になるといえるでしょう。（愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁）

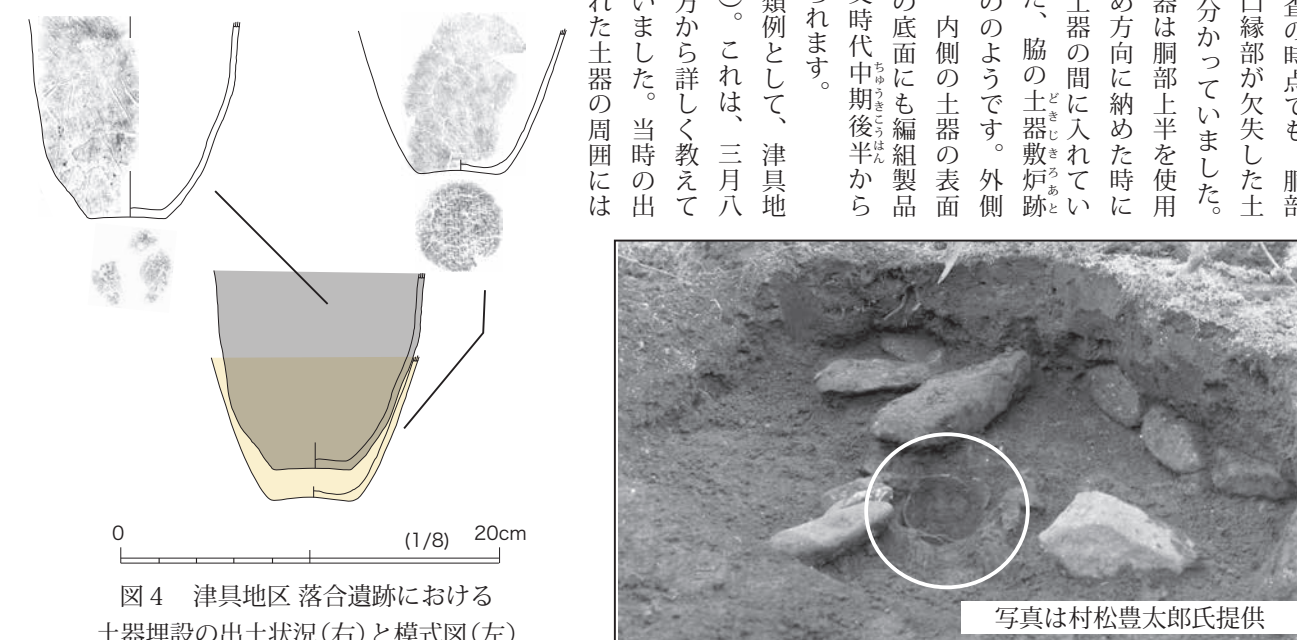


図4 津具地区 落合遺跡における土器埋設の出土状況（右）と模式図（左）

写真は村松豊太郎氏提供

平成二十七年年度の発掘調査予定

本調査を行う五遺跡、範囲確認調査を行う十二遺跡の具体的な内容を表にまとめました。(鈴木正貴)

調査内容	No.	遺跡名	ふりがな	地区	遺跡の時期	遺跡の種類	県遺跡番号
範囲確認調査	2	大名倉遺跡	おこなぐら	大名倉	縄文、弥生、平安、戦国	散布地	700297
範囲確認調査	2	下谷遺跡・滝の下遺跡・南貝津遺跡を一括し大名倉遺跡とする。町指定史跡。昭和25・26年と昭和43年に発掘調査が行われ、平成19・20・25・26年度に範囲確認調査が実施された。今年度も範囲確認調査を実施する予定。					
範囲確認調査	3	日掛遺跡	ひかげ	大名倉	縄文	散布地	700328
範囲確認調査	3	詳細分布調査では縄文土器が採集された。今年度、初めて範囲確認調査を実施。					
範囲確認調査	5	西地遺跡と東地遺跡を一括する。平成25年度に範囲確認調査、平成26年度に本調査4220㎡を実施した。今年度は県道より南側の区域を範囲確認調査する予定。	にしじ・ひがしじ	大名倉	平安、戦国	散布地	700152
範囲確認調査	7	ハラビ平遺跡	はらびだいら	大名倉	縄文、平安、鎌倉、戦国	散布地	700157
範囲確認調査	7	詳細分布調査では縄文土器や山茶碗など多くの遺物が採集された。今年度、初めて範囲確認調査を実施する予定。					
本調査と範囲確認調査	9	大名倉丸山遺跡	おこなぐらまるやま	大名倉	戦国？	生産遺跡	700347
範囲確認調査	9	平成16年度に県の試掘調査、平成18年度に範囲確認調査を実施。鉄滓が出土し鍛冶関連遺跡と推定。今年度は鉄滓が出土した区域の本調査と残りの範囲確認調査を実施。					
範囲確認調査	13	上戸神遺跡	かみとがみ	川向	縄文、平安、戦国	散布地	700160
範囲確認調査	13	詳細分布調査では縄文土器や内耳鍋などが採集された。平成26年度に範囲確認調査を実施し土坑が一基確認された。今年度はこの土坑を中心とした詳細な範囲確認調査を実施することとなった。					
本調査と範囲確認調査	19	大栗遺跡	おおぐり	川向	縄文、平安、室町、戦国	散布地	700163
範囲確認調査	19	詳細分布調査では縄文土器など多くの遺物が採集され、平成26年度に範囲確認調査が実施された。今年度は昨年度の調査で遺跡が展開すると特定された部分の本調査と、遺跡の有無を確定できなかった部分の追加の範囲確認調査を実施する予定。					
範囲確認調査	20	万瀬遺跡	まんぜ	川向	縄文、平安、戦国	散布地	700165
範囲確認調査	20	平成20・21・25年度に範囲確認調査、平成26年度に本調査2050㎡が実施された。今年度は残された範囲確認調査を実施する予定。					
範囲確認調査	26	大畑遺跡	おおはた	川向	縄文	散布地	700164
範囲確認調査	26	詳細分布調査では縄文土器や剥片などが採集されている。今年度、初めて範囲確認調査を実施する予定。					

調査内容	No.	遺跡名	ふりがな	地区	遺跡の時期	遺跡の種類	県遺跡番号
本調査	27	川向東貝津遺跡	かわむきひがしがいつ	川向	縄文、平安末、鎌倉	散布地	700348
本調査	27	平成16年度に県の試掘調査、平成18年度に範囲確認調査、平成22年度に本調査400㎡が実施された。今年度は残された部分の本調査を実施する予定。					
本調査	31	滝瀬遺跡	たきせ	八橋	縄文、室町、戦国	散布地	700174
本調査	31	平成19・25年度に範囲確認調査を実施。縄文土器など多くの遺物が出土した。今年度、初めて本調査を実施する予定。					
範囲確認調査	37	向橋遺跡	むこうばし	八橋	平安、平安末、鎌倉	散布地	700178
範囲確認調査	37	詳細分布調査では灰釉陶器等が採集された。今年度、初めて範囲確認調査を実施。					
範囲確認調査	38	永江沢遺跡	ながえざわ	八橋	縄文、鎌倉、室町	散布地	700175
本調査	42	笹平遺跡	ささだいら	小松	縄文、弥生、平安	散布地	700169
本調査	42	平成18・20年度に範囲確認調査を実施。縄文土器など多くの遺物が出土した。今年度、初めて本調査を実施する予定。					
範囲確認調査	50	添沢遺跡	そえざわ	田口	縄文、平安末、鎌倉	散布地	700188
範囲確認調査	50	かつて縄文土器が多数に採取された。また、詳細分布調査では山茶碗などが採集された。今年度、初めて範囲確認調査を実施する予定。					

設案発掘通信 No.9 平成27年5月号

編集・発行

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター



〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方8022の24

電話 (0567) 67-4161 [管理課] 4163 [調査課]

ホームページ <http://www.mai-bun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力

株式会社二友組